青梅療育院のお知らせ　　令和４年２月号

発行責任者／七枝　隆志　　編集／介護老人福祉施設　青梅療育院情報委員会

《社会福祉法人 仁育会 経営理念》

地域との連帯を深め信頼される社会福祉施設としての確立と、安心と安全を守るゆとりある生活支援を目指します。

《青梅療育院運営方針》

1. 利用者から安心されるサービスの提供
1. 生活の安全を守るサービスの提供
1. 要介護度に応じた適切なサービスの提供

＝２月の行事計画＝

３日（木）節分　豆まき
７日（月）誕生会
１１日（金）選択食
１８日（金）寿司の日
２５日（金）選択食
２８日（月）焼き芋大会

＝３月の行事計画＝

３日（木）ひな祭り茶話会
７日（月）誕生会
１１日（金）選択食
１８日（金）寿司の日
２５日（金）選択食
日付未定　ドライブ行事

＝新型コロナ対策と健全な事業運営に向けて＝

日本経済が新型コロナウィルスの感染拡大によって、停滞化しつつある半面で、職種によっては特に影響を受けない企業もあり、社会全般において国民に対する貧富の差が次第に拡大されていくことが心配されます。

いま全国で生活保護の受給者は２百万人を超え、企業で働く非正規労働者も就業者全体の３割を超えていることから、岸田政権が日本経済の立て直しをどのような施策で推進していくのか、特にこれからの社会保障や社会福祉の安全な対応が心配されます。

新型コロナウィルスによって、ここ２年間は決して経済の活性化が進んだとは言えない状況で、社会生活そのものが鈍化し、地域交流の機会も縮小化してきており、特に社会福祉事業においては、地域との交流を主点としていることから、ますますその特性を失い兼ねる状況が心配されます。

社会福祉法人は地域から必要とされる存在が求められていることから、高齢者の自立支援を支えるとともに、地域の様々な福祉課題に対し、率先して取り組むことが課題となっているため、健全な事業運営に向けて、職員の人材育成と資質の向上を図り、透明性のある事業運営を実践していくことが必要とされています。

いま社会福祉事業において一番深刻な問題は介護人材の不足であり、介護職員の定員不足によって入所定員の充足ができていない施設もでてきており、事業経営そのものに支障が出ていることが心配されています。

私たちは介護施設事業者として、利用者皆様の日常生活に最善をつくして、できる限りご満足頂ける日々を送らせてあげたいと思っており、誰もがやがて迎えなければならない人生の最後の段階においても、悔いの残らないように日頃から暖かい気持ちで誠意を持って、お世話させて頂くという心構えが大切であると感じております。

施設と利用者様との「施設利用契約書」の中に、看取り介護加算という項目がありますが、これは施設において最終的な生活の介助を行いながら、人生の終焉を看取るために設けられているものです。こうした看取り介護に対しても、ご家族様に安心して頂けるように努めてまいりたいと思っております。

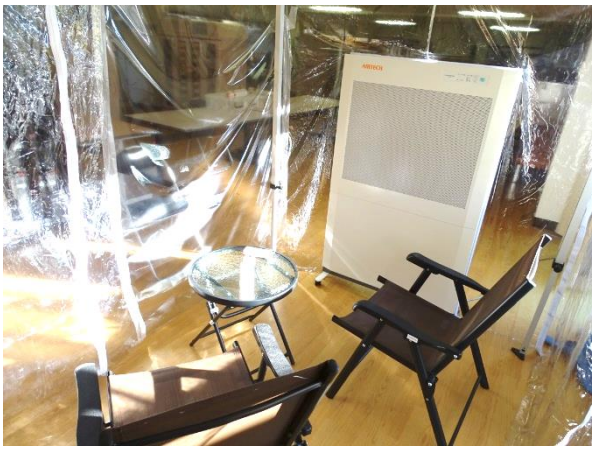
＝面会のご案内＝

　ご面会につきましては、感染対策の観点から屋外と室内での窓越し面会をお願いしてまいりましたが、この度、陰圧装置を利用した屋内での窓越し面会が可能となりました。

　１日２組、１回につき２名様までの面会で、１回の面会時間は１５分間までとさせていただきます。予約制となりますので、ご希望される方は生活相談員までご連絡をお願い致します。

　大変ご迷惑をお掛けしますが、ご協力お願い申し上げます。

TEL：０４２８－３１－８０５５　（担当）生活相談員



個別レク！　～お寿司～

それぞれのご利用者様のやりたい事を応援する個別レク。今回は【活鮮さん】のお寿司を頂きました。(*’▽’)

施設の中で初詣を行いました。

コロナ禍で初詣に行けない・・・
そこで施設内に神社建立しちゃいました！

アルコール設置の手水舎で心身を清めた後は、おみくじを引き、絵馬に願い事を書いて奉納しました。
「早くコロナが落ち着いて穏やかな日常が戻りますように！」